

学校保健活動・学校経営・学校運営に関する実践報告

～資質向上・健康教育推進の人材育成を目指して～

実践報告

【目的】

東京都教職員研修センターにおける教育研究普及事業団として、学校保健活動及び学校経営、学校運営、学校教育に関する研究・研修を行い、会員の資質向上を図るとともに、健康教育推進の人材育成を図る。

2025.6.14

1 共生社会を目指した学校づくりと養護教諭の役割 ～次期学習指導要領の動向を踏まえて～

講師：千代田区教育委員会教育長
堀米 孝尚 氏



少子高齢化・国際化・子供を取り巻く環境の多様化が進む中、すべての子供に対応できる柔軟な教育課程の必要性が強調されました。「誰一人取り残さない」教育の実現に向けて、教員の働き方改革や多様な学びの在り方、一貫した支援体制の構築が重要であるとされました。また、養護教諭は健康管理にとどまらず、学校全体のリスクマネジメントや心の支援を担う存在として、今後ますます専門性と連携力が期待されています

2025.8.22

2 事例から学ぶ不登校対応

講師：杏林大学 保健学部
教授 亀崎 恭子 氏



「困っていない不登校」「明るい不登校」といった新しいタイプも見られる不登校への対応について、研究成果に加えて現場の感覚を重視する姿勢や「困難は支援の鍵」とする視点を強調されました。

2025.8.22

3 令和の日本型学校教育におけるファシリテーターとしての教師が有する『集団のパラダイム』について

教師が学びのファシリテーターとして果たすべき役割や「集団の見方・考え方」をテーマに、学校現場における関係性や意味のある学びの創出、組織の進化に関する理論が語られました。受講者参加型のワークや準備運動を通して、対話を引き出す問いのあり方や、気づきを学びに変える感性の大切さについても実践的に学ぶ機会となりました。

講師：玉川大学TAPセンター
教授 川本 和孝 氏



2025.11.22

脱・教室マルチリートメント ～不適切な指導の改善と予防～

発達段階の幅をふまえた指導の工夫、ポジティブ行動支援の有効性、子どもの不快感情の受容や意見表明権の尊重の大切さを確認しました。さらに、教師自身の感情労働へのケアが、子どもにとっての「安全基地」をつくる基盤になることが示され、マインドセット（教師としての思考の枠組み）を問い直す貴重な機会となりました。

講師：杉並区立済美養護学校
主任教諭 川上 康則 氏



成果・課題

成果：今日的な健康課題解決のための研修を重ねることで、養護教諭としての専門性を高めるとともに、管理職としてよりよい学校経営を進めるための資質向上を図ることができた。

課題：今後も、都立公立学校現場のニーズに応じた研修を企画し、学びを深めることで、会員の所属校の健康教育の充実を進めることだけでなく、より多くの都立公立学校における健康教育の充実が図れるよう、広く発信をしていくことが必要である。

<令和7年度連絡先>

団体名		東京都学校保健経営研究会
代表者	所属	練馬区立早宮小学校
	職 氏名	校長 安岡 京
	連絡先	03-3993-5165
事務局	所属	葛飾区立堀切中学校
	職 氏名	主幹教諭 松島 智子
	連絡先	03-3693-0206
団体ホームページ		URL
		二次元コード
		keieiken.jimdofree.com 